

桜蔭俳話会 十一月句会 (第三三〇回)

平成二十六年十一月十六日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 3点①朝顔の種とる日課猫遊ぶ 幸
- 3点 小春日や会盛りあげし古写真 ヤエ子
- 3点 小春日やひとりのためのカレー煮る 清子
- 2点①一滴の油の綺羅や冬運河 守
- 2点①犬の仔の寝つきの早し木守柿 幸
- 2点①火事跡の抜けたる空の青さかな 守
- 2点①幼児らのてんでに散りぬ冬紅葉 秀一
- 2点 ふる里をこの地と決めむ柿たわわ 才美
- 2点 柿落葉土に戻すは惜しき紅 友子
- 2点 冬薔薇リリー・マルレーンの声に逢ふ 才美
- 1点①病み始む団塊世代冬に入る 明美
- 1点①砂浜の玻璃の丸みや冬日和 友子
- 1点①啄ばみの跡の残れる柿ばかり ヤエ子
- 1点 風来たりかすかなうねり草紅葉 ヤエ子
- 1点 一枚の喪中の葉書冬に入る 守
- 1点 聖夜劇眉の動かぬ天使かな 秀一
- 1点 踏切の赤き警報初時雨 秀一

1点 二つ目の山の高さよ落葉掃き 秀一

1点 豊の秋物産展のひとだから 弘子

1点 一投の釣り針の音冬の沼 守

1点 パトカーのつぎつぎ来たる夜寒かな 明美

1点 冬風の沖を離れしタグボート 明美

1点 奥の部屋基石の音する長き夜 邦子

1点 シーバスのともづな揺るる初時雨 秀一

1点 立冬の港のサイロ満ち始む 明美

1点 食べおさめつぶやく母の栗ごはん 邦子

1点 花枝香を放ちつつこぼれけり 友子

*

庭の端丈を競ひし石露咲きぬ ツル子

抱き起こすこと待てるかに小菊咲く 弘子

返信に小春の風を同封す 才美

今年酒父の笑顔の見えかくれ ツル子

大声を出せば散りそう萩の花 邦子

冬晴の和傘の和紙のぱんと張り 明美

当たり前のやうに生きて日向ぼこ 才美

子どもより親の意気込み七五三 邦子

街騒を隔つ林の草じらみ 弘子

八十二才の声朗々と村芝居 幸

この空気君へ上げたい秋の尾瀬

ヤエ子

送られし里の名物次郎柿

清子

傘寿なる振り返りしや秋深む

ツル子

真新し煉瓦造りやつるし柿

弘子

買ひたての銀色の靴星流る

才美

つり橋の溪の深きや谷紅葉

ツル子

短日のデパート迷い人一人

守

風染めし紅葉の山路盛りかな

邦子

箱根連山富士一望や今朝の冬

友子

死ぬる迄生き続けよと秋の夜

眞壽

短日や干し物忘れられてをり

友子

糺屋の蔵の白壁渡り鳥

幸

鳴高音優柔不断を叱咤する

ヤエ子

落葉まふ張りつばなしの売家札

弘子

夕刊のバイクの音や暮早し

ツル子

台風に庇壊され水強し

眞壽

喪の葉書受ける北風身に沁みる

清子

(不在投句 古野明美、原田清子、京林眞壽)

「事務局からお知らせ」

通信句会に投句されている方も、月例句会に、是非、ご参加ください。お待ちしております。
ます。

○十二月の句会

・日時 十二月二十一日(日) 午後一時から

・会場 旭区民文化センター・サンハート

(相鉄線二俣川駅ライフ五階)

○一月の句会

・日時 一月二十五日(日)

十一時三十分より新年食事会。その後、午後一時から句会開始。

・会場 旭区民文化センター・サンハート

食事会はライフ四階、場所は未定。(後日、連絡)